

チェコを代表する名門オーケストラが織りなす必聴のハーモニー！  
伝統の街と豊かな大地に育まれた音楽がそこにある。

# チェコ国立ブルノ・ フィルハーモニー管弦楽団

## Brno Philharmonic Orchestra



多彩な音色を奏でる英国の名手  
チェロ：マシュー・バーリー



指揮：レオシュ・スワロフスキー

スメタナ 交響詩「わが祖国」より“モルダウ”  
B. Smetana : "Vltava" from "Má Vlast"

ドヴォルザーク チェロ協奏曲 短調 作品104  
A. Dvořák : Cello Concerto in B minor, Op. 104

ドヴォルザーク 交響曲第9番 短調 作品95「新世界より」  
A. Dvořák : Symphony No.9 in E minor "From the New World" Op.95 B.178

2019年2月11日(月・祝) 14:00開演(13:30開場) **新潟県民会館 大ホール** 新潟市中央区一番堀通町3-13

主催/光藍社、公益財団法人 新潟市芸術文化振興財団  
お問合せ/光藍社チケットセンター ☎050-3776-6184  
新潟県民会館 ☎025-228-4481

全席指定  
(税込)

S席 9,000円 (1階P1~21列目、2階1~3列目)  
A席 7,000円 (1階22~24列目、2階4~12列目)  
B席 5,000円 (2階13~15列目)

発売日

N-PAC mate(友の会)会員発売 9月12日(水) 11:00~  
一般発売 9月18日(火) 10:00~(リハーサルは11:00~)

プレイガイド

新潟県民会館(窓口・電話 ☎025-228-4481)  
リハーサル(窓口・電話・オンライン)  
・チケット専用ダイヤル ☎025-224-5521(11:00~19:00/休館日を除く)  
・オンラインチケット <http://www.ticket.ne.jp/ryutopiaticket/>  
光藍社チケットセンター ☎050-3776-6184(平日10:00~18:00)  
新潟伊勢丹/セブン-イレブン(セブンチケット)  
インフォメーションセンターえん(メディアシップ1F)

※発売時間は各プレイガイドによって異なります。※未就学児入場不可。※保育ルームを設置しますので、公演の2週間前までに新潟県民会館へお申し込みください。(生後6ヶ月~未就学児対象/有料 200円) ※車椅子席は新潟県民会館のみ取り扱い。 ※出演者、曲目、曲順等が変更になる場合がございます。

# チェコの街、チェコの大地に育まれた音楽—。 伝統のブルノで愛される、風、香りを感じる名門オーケストラ。

チェコ第二の都市ブルノ。モラヴィア地方随一のオーケストラ、ブルノ・フィルと同じくチェコ出身の指揮者、スワロフスキーとともにやって来る。これまでも来日を重ね、魂を感じさせる演奏が私たち観客の胸を打ってきた。今回も自国チェコの名曲を“これぞ本場”と唸らせる伝統のサウンドで聴かせてくれるだろう。

ドヴォルザークの慈愛が詰まったチェコ協奏曲。ソリストにはイギリスよりマシュー・バーリーを迎える。バーリーとブルノ・フィルは既にヨーロッパで共演しており、オーケストラからの信頼も厚く、その演奏も高い評価を得ている。古典音楽だけでなく現代音楽でも才能を発揮するバーリー。ドヴォルザークがアメリカで書き上げたこの曲には伝統とともに新しい風が感じられる。チェコの可能性を追求する新しい風、バーリー×伝統のチェコ、スワロフスキー、ブルノ・フィルの融合は言葉を越えた化学反応

が起きる予感。実に楽しみである。

もう1つのメインは「新世界より」。ドヴォルザークの深い郷土愛と壮大な音楽がチェコの魂を呼び起こす。飾らない素朴さと質の高い音色、音楽に宿る魂が観客の心に触れるのだ。アメリカに渡り、望郷の想いと自らのアイデンティティを強くしたドヴォルザーク。最後の交響曲となった“新世界より”は哀愁と豊かなメロディーに溢れている。

そしてプログラム冒頭に演奏される“モルダウ”。チェコを貫く大河を描いた「国民的音楽作品」だ。ブルノ・フィルにはドイツ語「モルダウ」ではなく、チェコ語「ヴルタヴァ」という響きが良く似合う。彼らの音楽もそう響いているように聴こえる。スメタナが描いたヴルタヴァ河の情景と香りから始まる至福の時間。チェコの伝統と大地から育まれた音色でしか表せない情緒がそこにある。



## レオシュ・スワロフスキー(指揮)

ブラハ音楽院でフルートを学んだ後、著名なV.ノイマンの下で指揮法を学んだ。チェコ国立歌劇場でZ.コシュラーのアシスタントを務めた後、ブラハ室内歌劇場、ヤナーチェク・フィル、ブルノ・フィル、スロヴァキア・シンフォニエッタ、ブラハ国立歌劇場などの首席指揮者を歴任。ブラハ国立歌劇場では芸術監督も務めた。現在はスロヴァキア・フィルの常任指揮者、ブルノ・フィルの名誉会員を務めるほか、セントラル愛知交響楽団の音楽監督にも就任している。これまでにシュターツカペレ・ドレスデン、ザルツブルク・モーツァルテウム管、シュトゥットガルト・フィル、東京都交響楽団等にも客演。チェコにおいてはチェコ・フィル、ブルノ・フィル、ブラハ・フィル、ブラハ放送響など主要な管弦楽団と共演を重ねており、チェコを代表する指揮者の一人となっている。



## マシュー・バーリー(チェロ)

イギリス出身。ギルドホール音楽演劇学校およびモスクワ音楽院で学ぶ。その後シェルSLOコンクールのファイナリストとしてロンドン響と共演し注目を集めた。これまでにBBC響、フランクフルト放送響、ロイヤル・スコティッシュ管、ロンドン・シンフォニエッタ、ウィーン放送響、オランダ放送フィル、チェコ・フィルなどと共演。2013年にはイギリスの作曲家ベンジャミン・ブリテンの生誕100周年を記念してツアーを行い好評を博した。また最近ではバスカル・デュサパンのヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲をヴィクトリア・ムローヴァ、オランダ放送フィルと初演、その後も同協奏曲をムローヴァと共にロンドン・フィル、フランス国立管、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管などと演奏した。古典音楽から現代音楽まで幅広いレパートリーを持ち、国内外で幅広く活躍している。



© Ben Phillips

## ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団

チェコ第2の都市でありモラヴィア地方の中心地、ブルノを拠点に活躍するオーケストラ。1956年にブルノ放送交響楽団とブルノ地方交響楽団が合併し、現在の楽団が完成された。しかしこのオーケストラの起源は1870年代にさかのぼり、ブルノで活躍した若きヤナーチェクによって原形が作られている。そして創設以来、ブルノの音楽文化の中心としてその役割を果たしてきた。“ブラハの春”や“モラヴィアの秋”をはじめヨーロッパの音楽祭への参加も多く、海外公演においては1956年以降、延べ700回を超え、ヨーロッパ、アメリカ、アジアなど世界各地で公演を行っている。世界的に著名な指揮者やソリストとの共演も多く、ブロンフマン、プッフビンダー、W. ケンプ、クレメルなどとも共演。教育プログラムや室内楽、合唱団との共演も積極的に行っており、ブルノに根差した高水準のオーケストラとして高い評価を得ている。



### ご注意とお願い

※チケットをお求めの際は、あらかじめ下記のことをご了承くださいませようお願い申し上げます。

- 未就学児のご入場はご遠慮ください。
- 会場内における飲食、喫煙はご遠慮ください。
- 写真撮影、録画、録音等は一切禁止させていただきます。
- 開演後のご入場は制限させていただく場合がございます。
- やむを得ない事情により曲目、出演者が変更になる場合がございます。予めご了承ください。